

○共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧

資料3

No.	分類	取組項目	意見の概要	意見に対する考え方	意見の取り扱い	作業部会
1	医療	■1-(1)-② 地域医療体制の充実	帯広高等看護学院への支援について記載があるが、帯広大谷短期大学にも看護学科が設置されている。大谷短期大学との連携について考えていることがあれば教えてほしい。	令和5年度より、帯広市が開催している「健康まつり」に帯広大谷短期大学も含めた十勝管内の看護師養成校4校の学生や教員等が参加し、各学校の紹介ブースを設置することで、各学校と連携して看護師を目指す学生等の確保を図っており、今後も継続して実施していく考えです。	2) 実施中	医療・福祉
2	教育		(部活動の地域移行について) 少子化により部活動の維持が難しくなっており、生徒が望む部活動に入れない場合もあるが、やりたい部活動を行えるのが理想である。また、指導者の確保の問題もある。現在は、近隣の町村と広域で連携しているが、移動手段の確保への支援や、指導者の人材確保なども必要となる。	従来の部活動維持が困難になりつつあることは各市町村共通の課題ではあるものの、現実的な解決方法は一様ではなく、学校や自治体、各種目の個別事情に即した対応が必要であると考えていることから、定住自立圏での取り組みとはしませんが、引き続き個別に市町村間等で意見交換を進めて、課題に対応していきます。	5) 参考・対象外	教育
3	産業振興	■1-(4)-⑤ 広域観光の推進	日高山脈国立公園化により、十勝は、大雪、阿寒摩周の国立公園の3国立公園に囲まれ、このような地域はなかなかない。滞在型観光のプランやアドベンチャートラベルも含め、3つの国立公園を活かした広域観光と、それにインバウンドをどう取り込んでいくかを次期ビジョンで検討してほしい。	国立公園のブランド力を活用しながら、関係自治体や関係機関等と連携した観光振興に取り組んでまいります。ご意見は今後の取り組みの参考とさせていただきます。	1) 今回ビジョンに反映	産業振興・地産地消
4	産業振興	■1-(4)-⑥ 農業振興と担い手の育成	生産コストが上がっており、担い手の経営負担が大きくなっている。十勝の自給率は1,212%となっているが、日本の自給率38%という現状を踏まえ、食料は国内で自給する体制を構築する必要がある。また、地球温暖化により作物の収穫時期や収穫量などに影響が出ている。対策は難しいと思うが、研究機関も含めて、指導願いたい。	今後も、関係団体などと連携し、圏域内の農業者を対象とした合同研修会を開催するなど、地域の担い手を育成する取り組みを進めてまいります。	2) 実施中	産業振興・地産地消
5	環境	■1-(5)-① 地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の構築	ノーカーデーについては、減少傾向にあるという結果となっている。目標値を設定し、前年度を下回らない対策が必要と考える。長年続けていくと更に減少してしまうことが危惧される。具体的対策を来年度の取り組みに位置づけていただきたい。	自治体職員によるノーカーデーについては取組概要に記載し、住民に対する啓発を進めてまいります。	1) 今回ビジョンに反映	環境
6	地域公共交通	■2-(1)-① 地域公共交通の維持確保と利用促進	公共交通について、課題として、ドライバー不足も盛り込んだ方がいいと考える。	運転手確保対策について、今回、取組概要の中に記載しました。	1) 今回ビジョンに反映	企画
7	移住・交流の促進	■2-(1)-③ 移住・交流の促進	仕事がないと移住できない。特に人手が不足している業界の紹介もパンフレットに載せて全国的に発信していくことも必要があると思う。そのような対策を盛り込んだ形にしてほしい。	「十勝で働くことを検討している求職者」と「十勝で働く人材を募集する企業」を繋ぐ人材マッチングシステム「ビズロケとかち」を運営しており、十勝圏複合事務組合や帯広市が発行している移住関連パンフレットに掲載する等周知しているところです。今後、さらなる情報発信について検討をおこなってまいります。	2) 実施中	企画
8	移住・交流の促進	■2-(2)-③ 移住・交流の促進	福祉の現場は人材不足に悩まされており、本州のどこかの町で、福祉職として移住する方に準備金みたいなものを出すと話を聞いたことがあり、そのような取り組みにつながらないか。	準備金による就業支援については、定住自立圏の取り組みに加えることが、難しいものと考えております。引き続き、研修会等により、介護士の定着に取り組んでまいります。	5) 参考・対象外	医療・福祉

1) 今回ビジョンに追加 2) 実施中 3) 廃止 4) 今後検討 5) 参考・対象外